

城とまちがタッグを組み、 豊かな城下町へ

熊本地震から5年。もうすぐこの「まち」に天守閣が帰ってきます。

そこで今回、城下町遺産を武器に「攻める」人、熊本城の歴史を「守る」人にスポットを当ててインタビュー。

築城から400年、そして次の100年に向けて、それぞれの立場から、より豊かな城下町を目指し取り組む姿を紹介します。



くまもと・まち魅力向上協議会

会長 松永 哲典さん(38)

城下町の文化を守り続ける人々を広く知ってもらうために生まれた「城下町ラストサムライ」の1人。宮本武蔵が確立した「二天一流」の十八代目という顔も持つ。

斬新な発想と情報発信で「まち」に再び活気を!

「西日本最大級」と言われるアーケードがあり、「まち」の呼称で市民に愛されている中心市街地。しかし熊本地震をきっかけに廃業する店舗があり、城下町らしさも少しずつ希薄になっていました。そんな状況に危機感を感じ、「お城と共に、まちも復興するような仕掛け」に挑戦してきたのが松永さんです。

「アーケードはつながっているように見えますが、実は垣根があってこれまで連携を図る機会が少なかったんです。それらを取り払えば、新たな魅力が生まれるはず。」そう考え、まち全体の魅力を発信するウェブサイト『クマモトピックス』を開設。さらに「みんなにやさしいまち」をめざし、体の不自由な人たちとの交流イベントを行ったり、デッドスペースになっていたビルの屋上で空中図書館を開き、人を呼び込んできました。現在、学生や企業と連携したプロジェクトも始動中。新たなにぎわい創出に期待が高まります。



城下町ラストサムライの紹介はコチラ

攻める人

城下町遺産を武器に

守る人

400年の歴史を



大林組 熊本城土木工事事務所

所長 黒木 邦彦さん(67)

天守閣と飯田丸五階櫓の石垣復旧工事現場監督として、2017年1月～2021年3月まで携わる。足掛け4年に及んだ現場は47年のキャリアの中で最長。

当時の伝統工法を守りより強固で美しい石垣に

「震災後、初めて熊本城に足を踏み入れた時に頭をよぎったのは『さすが加藤清正。城づくりの名手』という尊敬でした」と振り返る黒木さん。というのも、天守石垣は、外側はほぼ築城当時のものが現存し、内側は明治期に修復された箇所が多かったですが、外側の損傷が驚くほど少なかったからなんです。

4年に及んだ復旧工事は、最新3Dデータを駆使して石垣の勾配を算出することから始まり、割れた築石は修理して再利用し、1日にわずか8石しか積めないほど緻密な作業だったそう。「作業中、胸に刻んでいたことは3点。熊本城特有の石垣の形状を守る、築城当時の工法を守る、観光客の安全を守るです。今回、小天守入口横の石垣にこの3点をクリアした特許工法を使用しました。ぜひチェックしてください。」



2021年
3月
天守閣の復旧

2016年
4月
熊本地震 発災

2018年
11月
二の丸御門安全対策 完了
二の丸御門が仮開通し、二の丸広場から三の丸方向への通行がスムーズになりました。

**2023～
2027年度**
監物櫓・平櫓の復旧
飯田丸五階櫓の復旧 など



**2028～
2032年度**
宇土櫓の復旧 など

2037年度
熊本城の復旧完了 (予定)

これからの復旧完了への道のり

これまでの熊本城復旧工事の歩み

2019年
10月
大天守の外観復旧 完了
日曜・祝日限定で天守閣前広場などから観覧できるようになりました。

2020年
6月
特別見学通路開通
数寄屋丸二階御広間や二様の石垣などの被災状況や復旧工事を平日でも観覧可能。また、日曜・祝日は工事用仮設スロープを通して頼当御門跡・二の丸広場方面へ通り抜けられます。

2021年
1月
長堀(国重要文化財)の復旧
約80mにわたって倒壊した長堀の復旧工事が完了し、坪井川越しに震災前と同様の姿を望めます。